

■ 授業科目名	■ 科目区分	
近代経済史 Modern Economic History		
■ 講義題目	331010	
	■ 年度	■ 時間割
	2012	後期 火4
■ 担当教員	■ 単位数	■ 教室
	2	
山本 裕[Yamamoto Yu]	■ 対象年次及び学科	
	1～ 経済学部	

■ 関連授業科目

日本社会経済史・ヨーロッパ社会経済史

■ 履修推奨科目

■ 学習時間

講義90分 × 15回 + 自学自習

■ 授業の概要

本科目は近代経済史の概説を講義する。その際、(1)近代の経済を、ヨーロッパを中心として、①人口、②市場、③工業化、という三点に着目してその発展を考察し、近代以前の時代との連続・非連続的側面についても併せて考察する。(2)19世紀の世界経済をヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の関係に力点を置いて、大量生産社会への移行と国際経済の生成・発展に留意しながら考察する。(3)20世紀の世界経済を、二度の世界戦争と民族独立運動の展開に留意しつつ、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の経済的関係の推移に力点を置きながら考察する。以上のことがらに焦点を合わせて講義を進めていく。

■ 授業の目的

近代経済史の基礎知識を習得することを目的とする。今日、私達は経済のグローバル化を当然のものとして理解している。しかし、人口の増大、市場圏の拡大、機械制大工業による大量生産の実現等が世界の各地で果たされた結果、ようやく19世紀に国際経済システムが生成されるに至った。以上述べたように、私達が常識として理解している経済的諸問題を、その端緒から帰結に至るまで歴史的に考え、理解していく。

■ 到達目標

- 1)近代経済における地域的多様性を説明できる。
- 2)一国史的枠組ではなく、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。

■ 成績評価の方法と基準

期末試験(80点)と、2回の授業レポート(計20点)で成績を判断するが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行う(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性があるが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行う(優れた意見の提出者には、更に加点する)。

■ 授業計画並びに授業及び学習の方法

テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する(moodleに毎回のレジュメをアップロードする)。毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する(なお、期末試験では、自筆ノートのみ持込可とする)。講義期間中、2回、レポートを課す。

以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。

(1)イントロダクション:経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法

- (2)～(3)「産業革命」(1)「産業革命」とは何だったのか？(※講義回数2回)
 - (4)～(5)「産業革命」(2):「産業革命」前史－近世ヨーロッパ経済の諸相とプロト工業化の時代(※講義回数2回)
 - (6)「産業革命」(3):ヨーロッパにおける都市化と工業化①
 - (7)「産業革命」(4):ヨーロッパにおける都市化と工業化②
 - (8)「産業革命」(5):新大陸の工業化と都市化
 - (9)国際経済の展開と帝国主義の時代(1):「大不況期(1873-96)」における産業的競争激化
 - (10)国際経済の展開と帝国主義の時代(2):国際経済の生成と発展
 - (11)国際経済の展開と帝国主義の時代(3):「帝国主義の時代」におけるヨーロッパ・アジア諸国の経済的動向
 - (12)20世紀の世界経済(1):第一次世界大戦～両大戦間期における諸国の経済的動向
 - (13)20世紀の世界経済(2):Managed Economyの時代－世界大恐慌のインパクトと1930～40年代前半における諸国の動向－
 - (14)20世紀の世界経済(3):第二次世界大戦後の世界経済
 - (15)講義の小括
- 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのかも、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく(前述の如く、期末試験には自筆ノートのみ持込可とし、配布資料は持込不可とする)。

■ 教科書・参考書等

岡田泰男編『西洋経済史』(八千代出版、1995年、3200円+TAX)。生協の書籍部にて購入のこと。
 長岡新吉・太田和宏・宮本謙介編『世界経済史入門－欧米とアジア－』(ミネルヴァ書房、1992年、3200円+TAX)は、通読を望む。各回の講義で、参考文献を提示する。

■ オフィスアワー

水曜日4限・5限(ただし、事前にメール等もらえれば、適宜対応する)。研究室は、幸町南キャンパス3号館3階13室。

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

■ 参照ホームページ

■ メールアドレス

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp